

絆 求 め て

7月3日発行

文責 幼児教育専門員 久保田学



主任・学年主任研修を実施しました！

令和5年6月17日(土)、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構専務理事の 加藤 篤彦先生を講師にお迎えし、「主任・学年主任研修」をJA長野県ビルで実施しました。テーマは、『「令和の日本型学校教育の構築をめざして」～保育の質を高める組織マネジメント～』で、非認知能力である社会情動的スキルについて、「心の動き(目標の達成)(他者との協力)(情動の抑制)」について、幼児教育の重要性と果たす役割などについてご講義いただきました。また午後は午前の講義内容を受け、園の状況を振り返りながら、これから園で取り組めること、取り組みたい事について、グループで考え合いました。



<研修から学んだこと・今後に生かしたいこと>

- 「非認知能力」ということで、心の働きは指示命令からは育たない。ということが心に響いた。特に「時間の流し方を決めているのは、保育者。目の前にいる子ども達のためにどんな時間を流すのか」という言葉が自分の中に刺さり、自分の子どもへの関りを考え直す機会となりました。
- 遊びのタイプの表を見た際、どうしても大人が方向づけてしまったり、概念を押し付けてしまったりすることが多く、子ども達の言葉、思い、表現を逃してしまったことがあったなと反省しています。子ども達を信じたり、ゆだねたりすることの大切さを感じました。
- 私の園では、私たちがあれもこれも提案するのではなく、子どもの発想を大事にして関わるようにしています。正直、見る人が見れば放置されている、先生と一緒に遊んでいないと思うのかなあ…と不安な面がありました。しかし、Co-opted play に当てはまると気づきホッとしました。
- 保護者への伝え方について、午後のグループワークでも出ましたが、わかりやすく、プロセスを伝えていくにはどうしたら良いか？ベストな形が見つけられるように、園で話し合っていきたいです。
- 結果ではなく、プロセスを大切に。そしてプロセスを保護者とともに共有することにより、「仕上がり、出来の良い姿を見せたい、去年はこうであった…」をなくしていけたらと思います。
- 子ども達が自分が主体となり、ワクワクして話し合ったり、準備したりしている姿、そして振り返りで、次どうしたらいいのと話している姿、そこが一番大切なことなのだろうと、改めて思いました。保育者である私が楽しそうに、ワクワクと保護者の方にお伝えできるように、よく子ども達の姿を見つめ、心を寄せ、耳を傾けていきたいです。
- クラス便りなどで、取り組みの姿や過程は伝えるようにしていますが、果たして“子どもの育ち”についてどれだけ保護者に伝えることができているのだろうかと感じました。
- つい、自分の許容範囲、ものさしで子どもの行動を制限してしまいがちなので、子どもに寄り添い、型にはめるのではなく、対話的にどうしたら良いのかを一緒に考えていきたい。

私たちはどうしても子ども達の力をできた作品や発表の出来栄など、結果で判断する傾向があります。それは、保護者の保育に対する評価が、結果主義になる面があるためしょうがない事でもあります。しかし、「子ども達の育ち」は、結果だけで語れるものではなく、活動のプロセスにこそ様々な育ちがあるのです。だから、そのプロセスでの育ちをどのように保護者に伝え、共有できるかが大切になるのです。育ちをどう伝えるか、ぜひ園の先生方と語り合ってみてください。(専門員 久保田)